

あなたはどれだけの事実を知っているのだろうか

元・原発技術者のモノローグ

朗読劇

「線量計が鳴る」

脚本・主演・中村敦夫

原発の町で生れ育ち、原発で働き、そして
原発事故ですべてを失った。これは天命なのか。
それとも陰謀か？老人は謎解きの旅に出る。



飯山公演 なちゅら 小ホール

10月14日(土) 13:30開場 14:00開演

全自由席:大人2,000円 高校生以下1,000円 チケット取扱店:マキノ書店(0269-62-2020)

物語:

- 一場 原発の町で生れ育ち、原発で働き、そして原発事故ですべてを失った主人公のパーソナル・ヒストリー(個人史)
- 二場 原発が作られ、日本に入ってきた事情。原発の仕組み。福島事故の実態。休憩
- 三場 主人公のチェルノブイリ視察体験。被曝による医学上の諸問題と現実。放射線医学界の謎。
- 四場 原発を動かしている本当の理由。利権に群がる原子力村の相関図。

中村敦夫(なかむら あつお):

TVドラマ「木枯し紋次郎」の紋次郎役で有名になる。「中村敦夫の地球発22時」ではキャスターを務めた。98年参議員選挙で初当選し政治家として活動した。著者「チェンマイの首」はベストセラーになり、近著の「簡素なる国」では、経済大国から環境立国への道を訴えている。2015年にはNHK連続テレビ小説「まれ」に出演している。反原発を訴えることは、演劇人の自分にできる最後の役割との想いがあり、全国での公演に取り組んでいくと語っている。

- * 挨拶 野上 暁(飯山市出身 日本ペンクラブ常務理事 東京純心大学こども学科客員教授)
- * 公演後、中村敦夫さんとの握手会。
- * 司会 今井理恵子(日本朗読検定協会プロフェッサー)

主催 朗読劇「線量計が鳴る」上演委員会 (代表 江沢岸生)

お問い合わせ:070-4170-6342(飯田) 090-2907-9722(江沢)